

# たかはる

町制施行80周年

高原町町勢要覧

## 高原町民憲章

わたくしたちは、高千穂の峰をはじめとする美しい自然の中に生き、住み良く、豊かで、生きがいある郷土を築くため、この憲章を定めます。

- 一、雄大で美しい郷土を愛し、みんなでこれを守りましょう。
- 一、心身ともに健康で、明るい家庭をつくりましょう。
- 一、豊かな教養を身につけ、みんなで文化を築きましょう。
- 一、互いに助け合い、平和で明るい町をつくりましょう。
- 一、働くことに誇りを持ち、豊かな町に育てましょう。



### 町章

高原の「高」を「ハル」のかな文字で囲んでいます。



### シンボルマーク

霧のかかった高千穂峰と御池をデザインしています。



### 町鳥「仏法僧」

狭野杉並木に棲息する渡鳥で、毎年5月始めに飛来繁殖し、9月上旬に飛び去ります。



### 町花「ミヤマキリシマ」

霧島山灌木地帯に広く多量に分布し、霧島名物の一つに数えられます。



### 町木「タチバナ」

遷都以前の由緒ある樹木として、大和民族の発祥地にふさわしい樹木です。



### たかぼー・はるちゃん

高原町に残る神話伝説の神々をモチーフに誕生した高原町のマスコットキャラクターです。あらゆるイベントに現れ、愛くるしい笑顔で高原町の魅力を発信してくれます。

## 高原町町勢要覧

企画・編集 宮崎県高原町まちづくり推進課企画政策係

〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓 899 番地

TEL : 0984-42-2115 FAX : 0984-42-4623

<http://www.town.takaharu.lg.jp>

発行 平成27年3月



高原町長 日高光浩

### 「神話」が息づく町 「たかはる」から

「高天原」「天孫降臨」「神武天皇生誕」、どれも『古事記』や『日本書紀』に登場する重要な場面です。

この3つの伝承を兼ね備えているのが、私たちの住む町「高原町」です。

昭和9年、町制施行により「高原町」が誕生しました。平成26年でちょうど80年になります。高原町の前身で、明治22年の町村制施行に伴ってできた「高原村」も、今と全く変わらない形でした。明治時代から実質百年以上も一貫して変わらない姿を持つ高原町は、全国でも非常に珍しい町ではないかと思えます。これも、先人の高原に対する篤い想いの賜物ではないでしょうか。

今、ちまたを賑わせている「消滅可能性都市」の問題ですが、高原町も例外ではありません。20年前に1万2千人だった人口は、平成26年には9千5百人まで減少しています。また、少子高齢化も避けては通れない問題です。

こういう話をすると、どうしても暗い顔になりますが、「ひよつこりひょうたん島」の歌詞のように、苦しい事があっても笑って前に進んでいきたいものです。そして、子々孫々の世代にこの素晴らしい自然と歴史にあふれた町「高原町」を渡すのが、今このときを生きる私たちの役割でないかと思えます。みなさんと一緒に「たかはる」を盛り上げていきましょう！

### 目次

- ぐあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 神武の里たかはる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 考察する「天孫降臨」と「神武天皇生誕の地」・・・ 6
- 神武天皇ゆかりの史跡マップ・・・・・・・・・・・・ 8
- 高原遺産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 移住者が物申すたかはるはスゴイ所です・・・・・・・・ 18
- 写真で見るくまこちよかところ高原町・・・・・・・・ 20
- 忘れてはいけないく新燃岳大噴火・・・・・・・・・・ 22
- 高原町イベントカレンダー・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 高原町第5次総合計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 高原町の特産品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 高原町の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- マンガで学ぶ神武の里たかはる・・・・・・・・・・・・ 29
- たかはるマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38



# 神武の里たかはる

ひなもり だけ  
夷守岳

まる おか やま  
丸岡山

おお はた やま  
大幡山

しん ちえ だけ  
新燃岳

りゅうおう だけ  
龍王岳

や たけ  
矢岳

なか たけ  
中岳

たかち ほのみね  
高千穂峰

ふた こいし  
二子石

中平地区から眺める

## ① 神話、そして天孫降臨

「高原」の地名は、かつて神々が暮らした天上の国「高天原」が訛ったものだとされています。このことは、薩摩藩が編纂した地誌『三國名勝図會』の「地元に住民の言い伝えによると…」との記述からも分かります。そしてもう一つ、高天原から天孫ニギノミコトが地上世界に降ったという「天孫降臨伝説」も備えています。

ニギノミコトは、天照大御神の命により、多くの神々を引き連れ、「日向之高千穂之久土布流多気」に降りました。その山こそ、高原町の西端にある「高千穂峰」とされています。言わずもがな、霧島連山を代表する霊峰です。標高1574mで、山頂には、ニギノミコトが突き刺したという「天逆鉾」があります。

## ② 生者と死者の世界

高千穂峰がある故でしょうか、山麓には、縄文時代から続く遺跡が数多く

になりました。

このような中、高原が歴史の大きな転換点に二度登場しました。その舞台が麓地区にある「高原城跡」です。いつ作られたのか不明ですが、一度目は天正4年（1576）。伊東氏一千の兵が守る高原城を、島津義久率いる3万10万の島津軍が攻め込みました。この戦を境に西諸県地方の勢力地図が伊東氏から島津氏へと変わり、伊東氏の勢力は大きく後退しました。島津氏は要衝霧島山を手に入れ、日向国中央部への足がかりを築きました。

二度目はその翌年。島津氏は高原城を拠点として佐土原や都都郡へと兵を進め、ついに伊東氏を日向国から追い落としました。いわゆる伊東氏の「豊後落ち」です。これにより、島津氏は日向国の南半分を手に入れ、九州中、北部への進出の契機となりました。

その後、高原は島津氏の支配下に入り、江戸時代も島津氏が治める「薩摩藩」に入りました。中心地には「地頭仮屋」が置かれ、藩都鹿児島から地頭が派遣されました。以後、高原は、度々霧島の噴火により被害を受けながらも平和な時代を過ごしました。

「高原」の地名がいつからあるのかは、わかりませんが、1400年代頃には複数の文献に「高原」の地名が見られます。当初の「高原」の範囲もよくわ

あります。大部分は調査されていませんが、いくつかの調査を総合すると、旧石器時代や縄文時代早期の遺跡数はごくわずかで、前期から増え始め、中期から後期半ばまで爆発的に増加します。しかし、後期後半になると極端に減少します。

次に多くなるのは古墳時代中期から後期ですが、発見された遺跡の殆どは「地下式横穴墓」と呼ばれる墓です。これまでに4群100基以上発見されており、中には墓室内に垂木や束などの住居構成部材を表現する等の珍しい墓もありました。ただ、その墓のほとんどなる集落は未だに発見されていません。

その後また遺跡はなくなり、次に多くなるのは平安時代半ば、9世紀後半から10世紀前半です。古墳時代と同じく集落はなかなか発見されませんが、「畠」遺構などの遺跡からも発見されます。その頃、短期間ですが大規模開発が行われたのかもしれない。ただ、この畠も御鉢の噴火と共になくなり、それ以後はススキなどが広がる原野になったようです。

## ③ 戦国、そして太平の世へ

日向国と大隅国のちようど境に位置する高原は、要衝の地であったため様々な戦国大名がその地を治めようと躍起

かりませんが、15世紀頃は今の広原地区を除いた高原町と都市高崎町のほぼ全域であったようです。江戸時代の初めも同じ範囲でしたが、延宝6年（1678）、高原郷から「高崎」郷が分離独立、これにより新たに小林郷から「広原村」が、都城からは「水流村（今の都市下水流町）」が編入されました。新生「高原」郷の誕生です。

今の「高原町」の範囲は、この時にほぼ決定づけられたと言えます。

## ④ 明治、そして

### 町制施行80周年

時代は江戸から明治に変わり「高原」は都城・鹿児島と所属県がめまぐるしく変わったものの、最終的には宮崎県に属しました。高原も明治以後その領域が度々変化しましたが、明治22年（1889）の町村制施行により、麓・蒲牟田・後川内（入木）・広原の4村が「高原村」となり、昭和9年（1934）の町制施行によりそのまま「高原町」となりました。

そして平成26年、高原町は「町制施行80周年」を迎えました。町制では80年ですが、今の町の範囲は、約400年までさかのぼる事ができる、非常に由緒ある歴史を持っています。

# 「天孫降臨」と「神武天皇」の生誕の地



「高原町はですね、神武天皇がお生まれになった所でして、東征という事で兵士を連れて今の奈良県に向かったんですが、その時に「えれし(偉い衆)」ばかり連れて行ったもんですから、こちらにはほがねえ衆ばっかい残ったとですよ。」

20年ほど前だろうか、宴席のあいさつなどでよく聞かれた一節である。

高原町は、「天孫降臨」「神武天皇ご生誕の地」という、二つの伝承を持つ地である。宮崎県には「天孫降臨」伝説が2カ所ある。すなわち、高原町の高千穂峰、そして宮崎県北部にある高千穂町である。どちらが天孫降臨の舞台か、江戸時代から盛んに論争されてきた。この論争がきっかけで、「高千穂峰」という存在が広く世に知られるようになり、全国から旅行者が押し寄せられるようになった。その中には詳細な記録を付ける者があり、その結果、私たちは在りし日の高千穂峰の様子を知ることができる。

この天孫降臨の舞台の論争は今以後行われているが、結論は出ていない。

そこで前述の一節である。高原町では、「天孫降臨の舞台」にはある程度の認識はあるものの、厳然として山が存在しているからであろうか、そこまで高千穂論争に固執しているような感情はないように思える。むしろ、もう一つの伝承「神武天皇ご生誕の地」の方に強い思いがあるように思える。それが前述のような言葉が登場するのもそのためだ。

「神武天皇生誕の地」は、その殆どが高原町オリジナルの伝承である。もともとなるのは、『日本書紀』『神代下』に見られる次の一節である。

一書曰、先生彦五瀬命、次稻飯命、次三毛入野命、次狹野尊、亦号神日本磐余彦尊、所稱狹野者、是年少時之号也、後発平天下奄有八洲、故復加号曰神日本磐余彦尊。

この「狹野」が高原町の「狹野地区」に該当するとされている。中央の文献にはたったこれだけしか記されていないが、宮崎県にはそこにはない神武天皇説話が多数存在する。例えば神武天皇の生誕地だけでも、高原町をはじめ宮崎市や日南市など複数ある。ただ、高原町の伝承の多さは群を抜いており、現在では高原町は「神武天皇ご生誕の地」と認知されている。

ここで、高原町における神武天皇説話を見ると、2つに大別される。

(1) 生誕、及び幼少の伝承

(2) 東征にまつわる伝承

(1)については、「皇子原」で生誕し、「宮の宇都」に居住、「都街道」を通って皇子原まで通い、御池の「皇子港」で遊んだ、等がある。そして(2)は「宮の宇都」を発し、「狹野渡」で船を使って川を渡り、「迎」で住民の出迎えを受け、「馬登」で馬を使って坂を登り、「鳥井原」で住民から見送られたという。ただ、それらを示す遺構は殆ど残っていないが、唯一残っているのが、(1)

の伝承に関わる「産場石」である。「産場石」は、現在の皇子原神社の一角にある。皇子原神社は、古墳時代後期に作られたと思われる「高原町古墳」(県指定史跡)の1号墳上に建っているが、昔からこの地にあったわけではなく、明治初年に「宮の宇都」にあった社が移築されたものである。

さて、この神武天皇説話、一体いつからあるのか。最も詳細に記されているのは、江戸時代末期に編纂された『三國名勝図會』である。『三國名勝図會』は藩主の命により作成された地誌である。すなわち、ここに掲載されている内容は、作成された時期に公的に認められていた「神武天皇伝承地」と言う事ができる。

さて、この『三國名勝図會』を見ると、高原郷の欄に「神武天皇御降誕之地」という下りがある。それを読むと、焼けボラが一面広がる窪地に屹立する2つの石があり、これが神武天皇生誕の際に使用された石という。理由は不明だが牛馬などはつないではいけないという話があったようである。

そしてもう一つ取り上げられているのが「高千穂宮址」である。ここは神武天皇とその父「ウガヤフキアワセズノミコト」が暮らした宮とされている。ただ、記されているのはこれだけで、今のような多彩な伝承は全く見られない。

では、今伝わっている伝承はいつできたのか、実を言えばはっきりとわからない事が多い。

狹野神社に伝わる古文書には、当時の高原に伝わる「聖蹟」として、「権現之洞」「王子之原」「都街道」「華表原」「花立原」などの地名が挙げられている。ただ、これは狹野神社側から見た伝承地なので、その他にもあるかもしれない。

しかし肝心なのは、狹野社の公的見解として、これらの「聖蹟」は「由来がよくわからない」と記されている事である。つまり、今ある神武天皇説話の構成要素は、少なくとも18世紀初めまでは遡れないのでは、という事である。

また、他の記述を見ると、神武天皇に関する扱ひも今とはずいぶん異なっている事がわかる。これを見ると、神武天皇は主祭神ではなく、脇宮に祀られている。しかも、またの名を「白山権現」と称しているのである。白山権現は姫神、女性神である。なぜ男性の神武天皇と女性神の白山権現が同一なのか、今となっては全くわからない。

現在、主祭神となっている事からすると、ずいぶんぞんざいな扱ひである。神武天皇説話には、これ以外にも大きな疑問がある。「なぜ高崎町方面に向かう事で終了しているのか」である。

鳥井原より先は都城市高崎町であるが、ここには高原町とリンクする形での伝承が一切聞かれない。

高原町における神武天皇説話を検証すると、どうしても新燃岳の享保噴火以前に遡る事は難しい。また、遡れたとしても今あるような説話は期待できないであろう。しかし、いつの頃からかわからないが、ある時を境にして、高原の地は「神武天皇ご生誕の地」という強固なアイデンティティを保有した。そして、それを周囲に認知されるに至った。それは一朝一夕では到底かなわない事である。先人たちの強固な思い、不断の努力があったからこそ、私たちは「神武の里たかはる」というフレーズを簡単に使う事ができる事だけは、覚えておく必要がある。

(文責 大學康宏)



②



①



③



④

①狹野神社(主祭神 神武天皇) ②霧島東神社(主祭神:イザナギノミコト・イザナミノミコト) ③皇子原神社(主祭神:イザナギノミコト・イザナミノミコト) ④霞神社



# 神武天皇ゆかりの史跡マップ

## ①高千穂峰 (たかちほのみね)

ニニギノミコトの天孫降臨伝説が残る霊峰です。山頂にはそのことを物語るかのように「天逆鉾(あまのさかほこ)」が立てられています。天逆鉾については諸説ありますが、ニニギノミコトが天孫降臨の際に突き刺したものと伝えられています。



## ②皇子原 (おうじばら)

古くから「神武天皇ご生誕の地」と伝えられており、現在は皇子原公園として整備されています。高原町から遠く宮崎平野まで見渡すことができる高台にあり、日向神話を分かりやすく展示した「神武の館」などがあります。



## ③産場石 (うべし)

皇子原公園内にある皇子原神社の社殿裏に祀られている石です。神武天皇が誕生した際に使われたと伝えられ、江戸時代の文献にも登場します。この石を触ると安産になる、子宝に恵まれるとも言われています。



## ④御腰掛石 (おこしかけいし)

皇子原公園内の皇子原神社へと続く石段横にあり、巨木に半分飲みこまれています。この地に生まれたとされる神武天皇が腰掛けられたと言われています。



## ⑤皇子滝 (おうじだき)

皇子原公園の北側を流れる清流には、いくつも滝があります。その一つが「皇子滝」と呼ばれています。由来は不明ですが、神武天皇が幼少の頃遊んだ場所と言われています。



## ⑥皇子港 (おうじみなと)

霧島連山最大の火口湖である「御池」。御池にはかつて7つの港がありましたが、その一つが皇子港です。神武天皇が幼少期に水浴びなどよく遊んだ場所と言われ、高千穂峰を正面に望む景勝地として知られています。



## ⑦狭野神社 (さのじんじゃ)

神武天皇を祀る、県内でも有名な神社です。神武天皇の幼名「狭野尊(さのみこと)」は、この「狭野」に由来していると言われています。参道沿いの杉並木は「狭野杉」と言われ、国の天然記念物に指定されています。毎年12月には狭野神楽が奉納されます。



## ⑧霧島東神社 (きりしまひがしじんじゃ)

高千穂峰の中腹、御池を一望できる高台にあります。国生み伝説で有名なイザナギノミコト、イザナミノミコトを主祭神としてお祀りしています。高千穂峰の山頂の「天逆鉾」は霧島東神社の社宝です。毎年12月には祓川神楽が奉納されます。



## ⑨祓原・祓川 (はらいばら・はらいがわ)

祓原は神武天皇が誕生した際に体を洗い清められた場所と伝えられています。また、祓川は祓原から流れ出る小川で、神武天皇がお祓いをする際には、この川の水を汲み使われたと伝えられています。



## ⑩血捨之木 (ちしゃのき)

由来はよくわかりませんが、神武天皇が誕生した際、母のタマヨリヒメが諸物を洗い清めた場所と言われています。



## ⑪都街道 (みやこがいでう)

江戸時代の文献にも登場する由緒ある名称です。かつて、宮の宇都にある高千穂宮から皇子原まで通うために使用された道と言われています。



## ⑫宮の宇都 (みやのつと)

神武天皇の父であるウガヤフキアエズノミコトの皇居「高千穂宮」があった所と言われています。江戸時代には社殿などが整備されました。



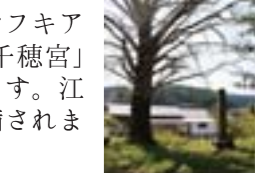
## ⑬狭野渡 (さのわたし)

神武天皇が「高千穂宮」を出発して東へ向かう際に、最初に船を使って川を渡った場所と言われています。



## ⑭馬登 (まのぼり)

「迎」を過ぎた神武天皇一行が坂を登る際に初めて馬に乗られた所と言われています。



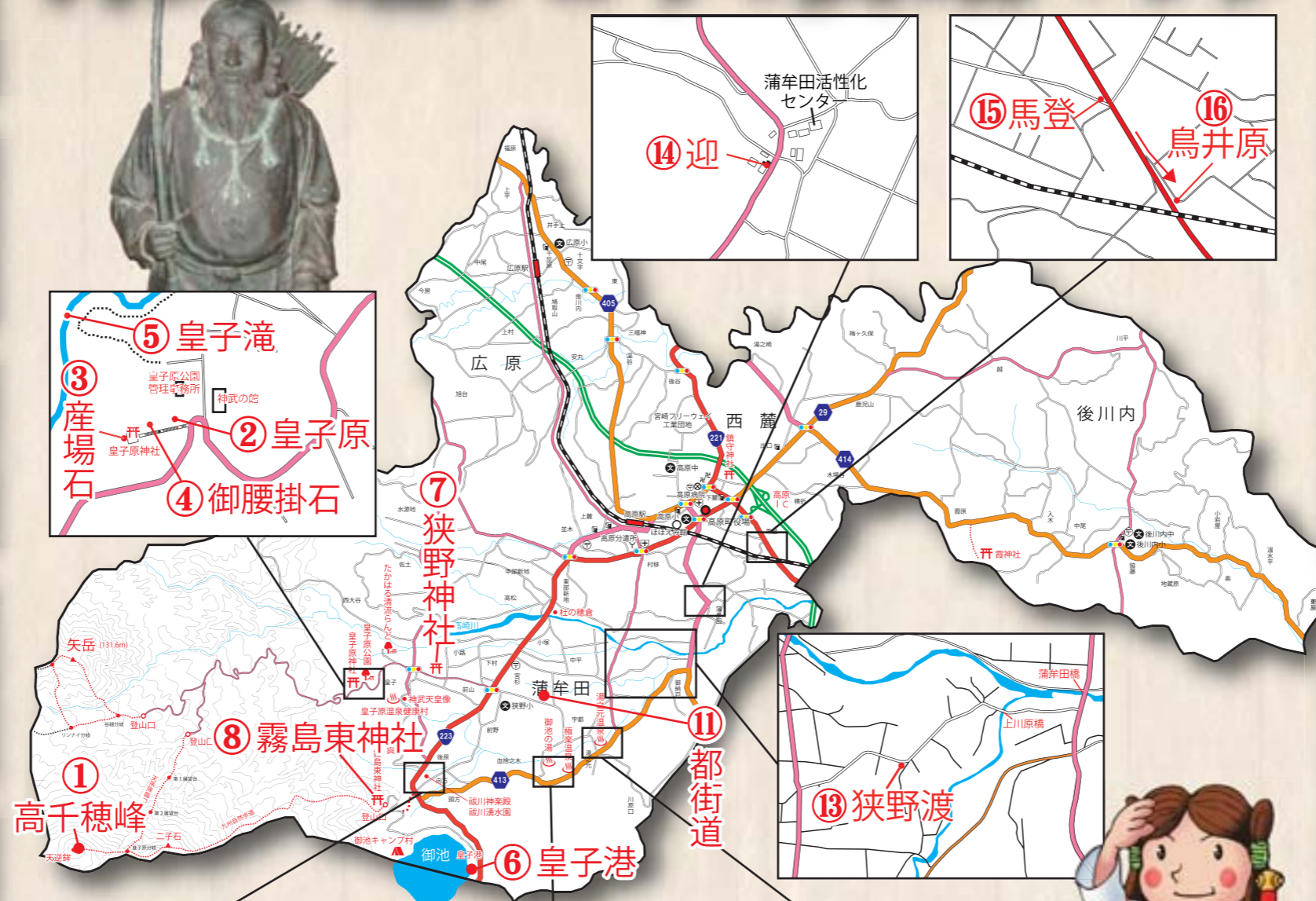
## ⑮馬登 (まのぼり)

「迎」を過ぎた神武天皇一行が坂を登る際に初めて馬に乗られた所と言われています。



## ⑯鳥井原 (とりいばら)

高原を離れる神武天皇一行を住民たちが安全を祈りながら見送った所と言われています。



高原町マスコットキャラクター「たかぼー」

# 高原遺産

それは町のかげがえのない宝物



世界には世界遺産があるよう

高原には高原遺産があります

## 日本最初の峰

霧島連山の中で最もきれいな形をした高千穂峰。見る場所によって味わいが異なりますが、その中でも、高原町から見た姿が一番雄大でしょう。

この高千穂峰が、富士山よりも格上であった事を、ご存じでしょうか。

今からちょうど5000年以上前に作られた『平家物語』（長門本）には、次のように記されています。

彼庄内にあさくら野と云所に、ひとつの峰高くそびえて、煙りたえせぬ所あり、日本最初の峯、霧島のだけと號す、金峯山、しやかのだけ、富士の高根よりも、最初の峯なるが故に、名付て最初の峯といふ、六所権現の靈地也、

この『平家物語』は、琵琶法師により語り継がれたもの。そこに「日本最初の峯」として「霧島のだけ」が挙げられているのは興味深いことです。この「霧島のだけ」こそ、今私たちが目にする「高千穂峰」である事が明白です。当時は「煙りたえせぬ御鉢とセットで一つの山と思われていたようです。

その高千穂峰が、「金峯山」「富士の高根」等の名だたる山よりも「最初の峯」と言われていました。

## 天孫降臨伝説の舞台「高千穂峰」

「天孫降臨」とは、天孫、すなわち天照大御神の孫にあたる「ニニギノミコト」が高天原より「あめのくしふるたけ」に降ったという、『古事記』『日本書紀』にある神話である。この「あめのくしふるたけ」が、高原町にある「高千穂峰」に該当するとされている。

# たかちほのみね 高千穂峰

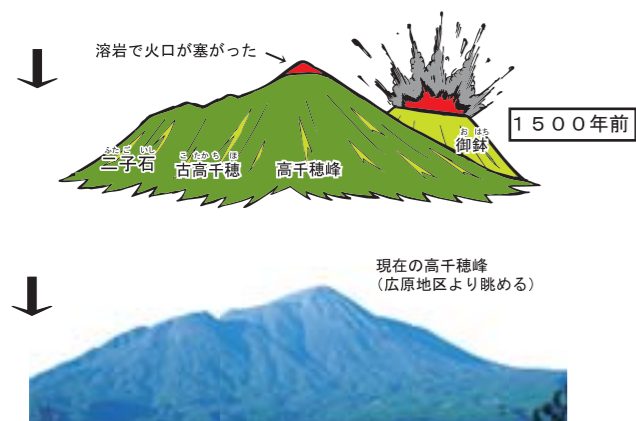
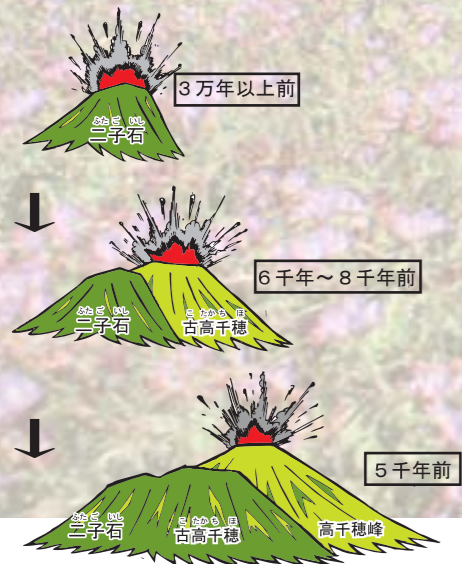
(1574m)

高原遺産



## 高千穂峰はこうしてできた

高千穂峰は正確には中央の峰を指し、私たちが麓から見る山は4つの火山体が連なったものです。その成り立ちは3万年以上前の二子石の火山から始まり、順に山が形成されていきました。



# 天逆鉾

あまのさかほこ

原産  
高遺



高千穂峰の山頂に突き立てられた謎多き伝説の鉾

写真：内村秀次

## さまざまな伝説

代表的な伝説を二つあげてみます。

①天上界の「イザナギ」と「イザナミ」の夫婦神が日本列島を作るために、大地に天沼矛(あめのぬぼこ)を突き刺し、かき混ぜた。この天沼矛が天逆鉾であるという説。(引き抜いた矛の先から滴り落ちたものが日本列島の一部になった。)

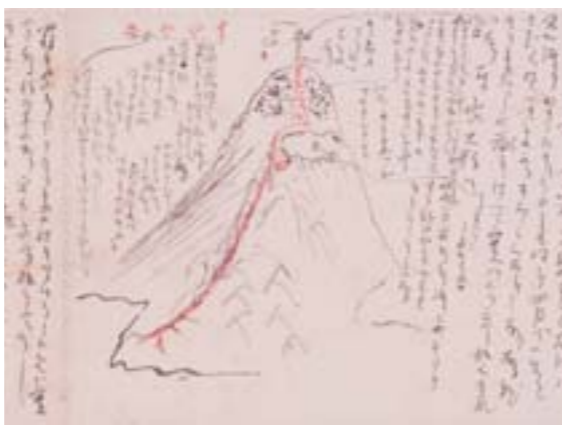
②高千穂峰に天孫降臨した神「ニギハヤヒ」が持っていた鉾が天逆鉾であり、国家平定のために使われた後、二度と振るわれることのないようにとの願いをこめて鉾を高千穂峰に突き立てたという説。

他にも様々な説がありますが、いずれも真相は分かりません。



## 坂本龍馬と天逆鉾

橋南谿の『東西遊記』を見て高千穂峰を訪問した数多くの旅行者の中で、最も有名なのが、あの坂本龍馬です。坂本龍馬が高千穂峰を訪れたのは、京都で暗殺される前年の慶応2年(1866)3月29日の事。新婚旅行で妻のお龍(おりゅう)と霧島を訪れ、高千穂峰に登り、二人で天逆鉾を引き抜いたとの記録が残っています。その時の様子は、姉の乙女宛の手紙に詳しく書かれており、当時の登山道や天逆鉾の様子を知る貴重な資料です。



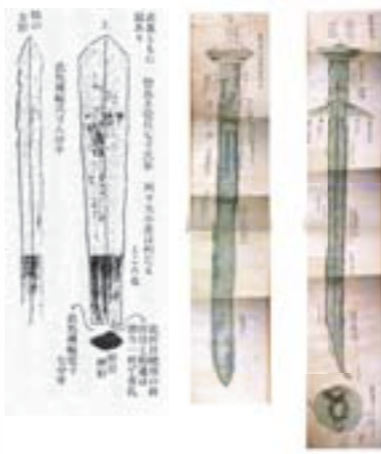
▲坂本龍馬関係書状(慶応二年十二月四日坂本乙女宛)(京都国立博物館所蔵)

## 300年前にはあった!?

いつの頃からか突然山上に現れ、「天下の奇物」として全国に知られるようになった天逆鉾。一説には、信仰深い山伏の一人が置いたといわれ、また一説には薩摩の島津義久が勢力拡大の一環として伝承に沿った逆鉾を鍛冶屋に作らせ立てたとも言われます。

高千穂峰は霧島修験の聖地。当然山は非常に険しく、そう簡単に登る事はできませんでした。それにも関わらず、大勢の旅行者が一目見ようと危険を顧みずに訪れました。

天逆鉾を見た最も古い文献は、延宝3年(1675)に登頂した橋三喜(はしむね)の『宮巡詣記』。その後、天明2~3年(1782~83)に登頂した橋南谿(はしなん)の『東西遊記』により、天逆鉾の存在が一躍有名になりました。



▲矛先図 ▲柄図  
資料：木下逸雲霧島登山記(霧島東神社所蔵)

## おそれ多い存在

天逆鉾は粗略に扱おうと災いをもたらす存在でもありました。江戸時代半ば、大鳥居を寄進するほど霧島に対し信仰心の篤かった鹿児島商人池田正右衛門。逆鉾の隣に全く同じ物「偽鉾」を建てたところ、「神の怒り」に触れ、本人も刃傷沙汰に及びなくなったと言われます。

## 柄だけだった

霧島の度々の噴火により鉾先が折れてしまい、柄だけの時代があったようです。これは江戸時代の木下逸雲の記録でも確認できます。(龍馬が登った時には、すでに柄だけでした。)鉾先は都城市吉之元町の荒武神社の御神体として祀られていたようですが、戦後の混乱の中で紛失してしまったと言われます。現在の鉾先は後付けのものであり、いつ誰が付けたかは分かっていません。



▲荒武神社(荒嶽権現)

## 石の天逆鉾

その昔、一人の大男が高千穂峰から天逆鉾を担ぎ、麓の祓川まで降りてきた事件があったそうです。祓川の人々は男を問い詰め、なんとか天逆鉾を取り戻しましたが、突如、その男が行方不明になりました。人々は天逆鉾が自らの意思で降りてきたかと思い、天逆鉾は山頂に返しましたが、石で複製の天逆鉾を作り、それをしばらく祓川で祀りしていたそうです。現在、この石の天逆鉾は霧島東神社の境内にひっそりと鎮座しており、当時の麓の人々の篤い信仰心をうかがい知ることができます。



## 大切なのは人の心



霧島東神社 宮司  
黒木将浩さん

天逆鉾は当神社の社宝であり、月に一度は高千穂峰に登り、天逆鉾を礼拝します。現在は、史跡というイメージを持つている方が多いようですが、修験道の盛んだった時代には山伏達が修行の一環として礼拝していました。また、麓の人々は雨の少ない時期になると天逆鉾の前で雨乞いの祭りをしていたそうです。今では、登山客も安全を祈願します。このように時代や人によって天逆鉾に対する思いは違いますが、感謝し、崇拝する気持ちは同じです。大切なのは、天逆鉾へ対する人の心なのです。



▲霧島東神社のお守り

# 高原の神舞

たかはる

かんめ

高原  
遺産



国重要無形民俗文化財  
夜を徹して行われる勇壮な舞

ゆうそう

まい



高原の神舞とは「祓川神楽」と「狭野神楽」の二つの神楽の総称です。どちらも霧島山の信仰に基づく神楽とされています。毎年12月の神楽の日、人々は降り立つ神々と一体となり、夜を徹して舞い続けます。高原町を含む旧薩摩藩は、かつて多くの神舞がありました。そのほとんどが衰退あるいは消滅しました。西諸県地方においても、高原以外で残存しているのは、わずか小林市1カ所、えびの市2カ所、しかも数演目残っているだけという状況です。こういった中、旧来通りの大がかりな舞庭（神楽を舞う舞台）を設けての神舞を現在も行っているのが「高原の神舞」であり、その存在は非常に貴重です。

## 素面の舞

神楽と聞けば、仮面をつけた舞をイメージしますが、高原の神舞では仮面の舞よりも仮面をつけない真剣や長刀などの武器を多用した素面の舞が多いと言われます。これは修験道（山で修行を行う宗教）の影響を受けているため、刀のほか山伏が持つ錫杖（スズ）のついた杖を用いるなど、霧島修験の痕跡と思われる採り物を使った舞が多くあります。



▲狭野の「踏剣（ふみつるぎ）」。見ている側にも緊張が走る。



▲狭野の「金山（かなやま）」。「派手な狩衣（かりぎぬ）を身にまとい、にらみのきいた面（おもて）で力強く舞う。」

▲狭野の「花舞（はなまい）」。「子どもの十二人の舞。最後は全員で手をつないで岩潜り（いわもぐり）」を行う。

祓川の「剣（つるぎ）」。「毎年小さな子どもが大人二人を両脇に從え、真剣の切っ先を素手で握り軽快に舞う。」



## 篤い霧島信仰

修験道の影響の他にも高原の神舞には、山の神の象徴である三つ又の鉾（ほこ）手にした狭野の「鉾舞」や、祓川の「田の神」二山の神が里に降りて田の神になるという言い伝えなど、霧島信仰を反映している演目があります。また、他の舞でも霧島山を崇拝する神歌が歌われているなど、霧島信仰との深いつながりがあります。舞以外にも狭野では神舞終了後に「霧島講」が行われており、「霧島様」と称された「霧島山周辺で見られる火山岩」が祀られた祠（ほこ）を担ぎ、その宿替えを行います。このような舞や儀式は霧島信仰に関する諸行事が消滅している現在、民俗学的にも注目されています。

▲狭野の「飛出（とびで）」。「名前通り祭壇の下から飛び出してくる。」



▲祓川の「幣貫之事（ひもらいのこと）」。「四人の鬼神が中央の採り物を奪い合う。迫力ある動きが見物。」

祓川の神楽殿にて受付をする巫女たち。▶

振る舞いそばを行う家にはズラリと焼酎が並ぶ。▼



▲祓川の「十二人剣」。素面12人による刀舞。迫力ある舞はまさに圧巻である。左手に左隣の切先を握り行われる「岩潜り」の勇壮な舞は感動すら覚える。



▲狭野の「臣下（しんか）」。「ユーモラスな動きは笑いを誘う。」

▲祓川の「田の神」。

## 社家の存在

高原の神舞の起源は不明ですが、400年前にはすでに舞われていたと言われます。長年にわたる人から人へ神舞は受け継がれてきました。神舞伝承の中心となるのは社家（氏子）の存在です。両神舞とも現在は保存会を組織していますが、旧来の社家中心である事には変わりありません。特に祓川は現在も霧島東神社の氏子のみで運営されています。

## 振る舞いそば

神楽の夜には地区の多くの家で、訪れる人に焼酎と神楽そばを振る舞うのがならわしとなっています。寒い夜に食べる温かいそばは冷えた体にしみみ、心まで温かくなります。そばは家によって作り方やダシのとり方が異なり、様々な味があります。また、年に一度の神楽そばのために畑でそばを作っている家も多くあります。振る舞いを受けるとは、お礼として焼酎を心付けとして持ってくるのです。





高原  
遺産



# べづがハホ

ユーモラスに演じられる豊作祈願の田遊び神事



←ニスで塗られたピカピカの木牛



▲本場に生きているかのような木牛の動き

最後に全員に配られる味噌と種もみ ▶



▲今回はマイクの電源が入っていないハブニングが!



▲油断していると杖で足を引っかけられる



女らしく出てくるハホ。手やあごが明らかにおじさんな面白い



▲祭りの最後に行われる餅まき。縁起物の餅をもらおうと参加者は必死だ

祭りのウリはやはり即興的な笑い  
です。観客であっても「田人が足りない」と仲間に入れられ演じさせられたり、登場予定者の帯が見つからないと何分も待ったりと、予定外の出来事もよくあります。いずれも最終的には「笑い」に変わります。べづがハホは「祭り」というものの持つ持っている本来の重なる祭りで。

# おたうえさい 御田植祭

高原  
遺産



五穀豊穡を祈願し人々が舞い踊る



御田植祭は毎年5月16日に行われる、狭野神社に伝わる伝統的な稲作儀礼です。以前は神社近くの神田で、早乙女による田植えが行われていましたが、現在は、神社への芸能の奉納のみ行われています。祭りの当日は、浴衣姿に白頭巾をかぶった男衆による「棒踊り」と、緋の着物に豆絞りをした女性による「奴踊り」が奉納されます。この棒踊りは、豊臣秀吉の朝鮮出兵に従軍した島津義弘の帰国祝いとして創られたのが始まりとされており、南九州に広く分布しています。

▶踊りの始まる前は独特の緊張感がある。



▲今回初めて奴踊りを踊った娘さん。右はお母さん。踊りは親から子へ伝わる。



勇壮な棒踊り。狭野の他にも蒲牟田・広原・花堂地区に伝承されている。

華やかな奴踊り。昔は男衆だけで踊られていた時期もあった。(もちろん、格好はこのまま)。



**始まりは即興だった奴踊り**  
豊臣秀吉による「九州征伐」の際、前述の狭野杉のくだりで登場した新納忠元が、南下してきた豊臣軍を撃退したことを祝って、即興で踊ったのが奴踊りの始まりとされています。忠元は嬉しさのあまり、顔にひげをかき、即興の歌で踊ったといわれます。

その後、庄内の乱(島津家の内乱)が起き、忠元は都城周辺を転戦し、各地を落とすたびに得意の奴踊りを披露しました。狭野にも忠元軍の前線基地があり、奴踊りはこの時に伝わったものではないかと言われています。

奴踊りは長い間衰退していましたが、昭和の初めに復活しました。以前は男性が踊っていましたが、現在は女性に伝承されています。

奴踊りの始まりは祝いの踊りであることから心の中のうれしさを顔に出して元氣よく楽しく踊るのがよいとされています。飛び跳ねたり、腰を曲げたりする様子を見る

とこちらまで  
楽しくなります。



◀生の歌声にあわせて棒踊りは踊られる。

わたしたちのまわりに  
まだまだたくさんある高原遺産  
あなたも見つけてみませんか

高原  
遺産



# たかはるはスゴイ所です 移住者が物申す!



## 昔のままを残してきた

高原町が誇れることの一つに、自然や町並みなど、昔からの姿をそのまま守り続けたことが挙げられると思います。「何もない」と町の人からよく聞きますが、どこも同じような「特徴のない」町並みが日本各地にある中で高原町だけが持つ、特別でここにしかない風景を今に残していることは素晴らしいと思います。

## 高千穂峰がすぐ近く

東京にいる時は、家の周りは建物ばかりで、山らしいものは見えませんでした。山登りに行くかと思っても近くの登山口まで2時間かかっていたました。高原町は霧島がすぐそこにあります。高千穂峰の登山口まで数十分あれば行けます。しかも、高千穂峰は天孫降臨伝説の舞台となった山です。

そのような霊峰がこんなに近くにあり、毎日美しく見ることができ、さらに登ることもできるなんて本当に誇れることです。

## 空の広さと夜の暗さ

夜、外に出ると満天の星空が広がります。市街地からの光もなく、本物の暗闇を体験できるのも特別なことです。また建物も少ないので、空が広く感じます。心洗われる風景を毎日眺められるのもぜひいたくなことですね。

## 地域の結びつきが強い

私が高原町に来たその日に、地区の「飲ん方」に招待されました。東京では近所の人たちと飲むことはほとんどありません。私は強い方ではありませんが、飲ん方に参加することで、一気に人と人の距離が近くなると感じました。また、小学校の運動会後にそのまま校庭で飲ん方が始まるうとは思いません。

## 未来のある町

「昔のまま」を維持しながらも、移住者である私達を温かく受け入れてくれた高原町。ほかにはない「美しい村」の風景と、人々のつながりを大切にすることの風土、そして、たくさんの資源に恵まれていることを、心から誇りに思います。

言われてみて初めて  
気付くなく



ぼっぼん



北原 慎也さん (北狭野区)

平成 24 年 4 月に家族 5 人で高原町に転入。東京での生活に疑問を持ち、家族がもっと幸せに暮らせる地を探して高原町にたどりついた。



マーティン ロス マイケルさん (鹿児島区)

平成 25 年 5 月に家族 5 人で高原町に転入。東日本大震災や原発事故が起こる中、子どもたちを安心してのびのびと育てられる地を探して高原町にたどりついた。

# これらは誇れることです

## 家から5分で釣りに行ける

東京にいる時は、3時間かけて山梨県や長野県に溪流釣りに行っていました。高原町に来て驚いたのは家から5分で釣りに行けることです。朝、仕事の前にちよつと行くこともできます。しかも、水がものすごくきれいで、ニジマスやヤマメもいます。全国のいろいろな場所で釣りをしましたが、高原のニジマスはヒレがきれいで釣り上げたときの美しさが違います。それに魚自体も大きいですね。ここでは60センチのニジマスも珍しくありません。釣り好きには最高の場所です。

また、高原インターがあるの、行くかと思えば車で海釣りにも行けます。鹿児島空港や宮崎空港も近いのもメリットです。田舎だけど、どこにでも行けるといふ地の利の良さは素晴らしいと思います。

現在、狩猟も行っています。去年は



毛鉤職人 大迫 浩之さん (下麓区)

フライフィッシングに使われる毛鉤の職人。専門誌へのコラム執筆や毛鉤に関する本も出している。平成 23 年 10 月に東京から妻の実家である高原町に転入。フライフィッシングのほか、現在はシカやイノシシなどの狩猟も行っている。



シカを罫で17頭獲りました。シカの毛は毛鉤にとっても向いています。霧島の自然から頂いて作った毛鉤で霧島の魚を釣る。こんなぜいたくなことは東京ではできません。



▲奥さんの久美子さんと(左から)彩霞ちゃん、慶奈ちゃん、幸永くん。



▲車を少し走らせると、大自然の釣り場がある。▲きれいなヤマメ。

この前も近所の人から新米を6俵も頂きました。おいしい野菜もよく頂きます。困った時いろいろと手助けしてくださいます。これまで私が住んできた地域の中で高原が一番人が温かい町だと思います。誇りと言うならばこの高原町の人々の優しさがそれに値すると思います。

高原町の人たちは当たり前で特に感じていないかもしれませんが、ものすごく親切で優しい人が多いと思います。高原町に最初に家を探しに来た時に、家の周りの人にあいさつに行きました。私が外国人にも関わらず、とても親切にしてください、とても心が温かくなりました。地方の方が外国人に対してこんなにオープンだとは意外だったのです。現在の家を選んだのは価格や立地条件もありますが、最後の決め手は人の優しさでした。



▲狭野神社 杉並木



▲祓川の與一桜



▲祓川湧水

～写真で見る～

# まこちよかところ 高原町

※「まこちよかところ」→「ほんとうにいいところ」



▲御田植祭 奴踊り奉納



▲早朝の御池 高千穂峰の二子石が湖面に映る



▲皇子原公園 咲き誇る 300万本のヒガンバナ



▼地域の年中行事「おねっこたっこ」



～忘れてはいけない～

# 新燃岳大噴火

鳴り響く地鳴りおびえる住民



1月27日午前2時35分 役場屋上より 赤い火柱と夜空に伸びる火山雷

**平**成23年1月26日午前7時31分頃、新燃岳（1421m）で小規模な噴火が発生した。噴火はその後も続き、午後3時30分頃には噴煙が火口から1500m上空まで上がった。27日の未明から明け方にかけては「ゴーツ」という地鳴りとともに、火口から火柱が上がった。さらに、「空振」（爆発に伴う空振動）の影響により、一晩中、窓ガラスはガタガタ鳴り響き、激しい火山雷の閃光は住民を恐怖に陥れた。28日には町内の広い範囲に降灰が確認され、町は灰色に染まる。30日の深夜には町内の513世帯1158人に避難勧告が発令され、避難所では多くの住民が眠れぬ夜を過ごした。



▲避難勧告発令。ホールにて一夜を過ごす。（ほほえみ館）  
▲安全のため、登下校は車で送迎。（高原小学校）  
不安で眠れない。疲労の色が見える避難者。（ほほえみ館）



▶ヘルメットを持つ児童。（狭野小学校）



▲誰もいない体育館。灰で床一面真っ白だ。（狭野小学校）  
▲灰の降り注ぐ町。人通りは無い。（下籠）  
おさまらない噴火。地鳴りに牛もおびえる。（常盤台）

灰色の町  
「まさかこんなことになるなんて・・・」

ハウスの降灰除去作業。（祓川）  
▲噴石で割れた車のガラス。（花堂）



▼銅像に積もる灰。（御池）



▲墓に灰の掃除に来た女性。先祖に家族の安全を祈る。（狭野）



▲灰に埋もれるハウレンソウ。ほうぜんと見つめる女性。（鹿児山）



## まちづくりの基本理念

わたしたちは、先人が引き継いできた「水とみどりと神話」という貴重な財産を活かした「神武の里づくり」をまちづくりの基本として、豊かな自然と共生を図りながら、恵まれた地域資源を最大限に活用し、町民との対話と協調、参加と合意により持続的な発展を目指していかねばなりません。

そこで、高原町のまちづくりの基本理念を

「水とみどりと神話とともに  
はばたく神武の里」とします。

## まちの目指す目標像

人口減少の一途をたどる中、ふるさと「たかはる」をさらに活力ある町にするために、常に創意工夫を凝らし克服されていない諸々の課題に対処し、「神武の里づくり」の目指す目標像を

「自然と神話を守り 豊かさを求め  
1万人の笑顔あふれる町づくり」とします。

## まちづくりの基本目標

目標像を目指すために「人づくり」「暮らし」「地域」「産業」の4つの視点で基本目標を設定します。

### 基本目標1 人づくり

恵まれた自然の中で子どもからお年寄りまで笑顔であふれ、教育の充実と人づくりを目指します。



### 基本目標2 暮らし

少子高齢化社会に対応するため、保健・医療・福祉の充実と元気で安心して生活できる環境づくりを目指します。



### 基本目標3 地域

町民参加のまちづくりと町民と協働する行政運営の整備・充実を図る地域づくりを目指します。



### 基本目標4 産業

自然との共生を図り、各産業の振興と産業間連携による豊かなまちを目指します。



## 高原町 第5次 総合計画



高原町マスコットキャラクター  
「はるちゃん」

## 高原町 イベント カレンダー

毎月第3日曜日は  
たかはるよりどり交流市  
(軽トラ市)をやってるニャ  
※中央商店街 (8:30 ~ 11:00)



たかはるよりどり交流市  
イメージキャラクター  
「にゃんトラ」

### 春

皇子原公園花まつり 3月下旬  
高千穂峰山開き 4月第2日曜日  
御田植祭(棒踊り・奴踊り) 5月16日  
神武の里総合武道大会 5月第2日曜日

### 夏

まつり高原 8月第1日曜日  
後川内夏まつり 8月中旬

### 秋

皇子原公園ヒガンバナまつり 9月下旬  
神武の里たかはる秋まつり 10月末の日曜日  
霧島登山マラソン 11月第1日曜日

### 冬

狭野神楽(高原の神舞) 12月第1土曜日  
祓川神楽(高原の神舞) 12月第2土曜日  
おねっこたっこ 1月  
日本発祥地まつり 2月11日  
苗代田祭(ベブガハホ) 2月18日



▲霧島登山マラソン



▲まつり高原



▲たかはるよりどり交流市



▲御田植祭(奴踊り)

▲苗代田祭(ベブガハホ)



▲日本発祥地まつり

# 高原町産 宮崎牛



高原町の  
特産品  
高原町ふるさと納  
税推進協議会より

「宮崎牛」とは、宮崎県内で生産肥育された黒毛和牛で、日本食肉格付協会が定める格付基準において肉質等級4等級以上のものをいいます。水と豊かな自然が広がる霧島山のふもとと高原で育った宮崎牛の肉質は、国内外で高く評価されています。焼肉、ステーキ、すき焼きなど、厳選された味をお楽しみください。



## ぶどう

日照時間が長く、寒暖の差がある高原では上品な甘さのぶどうが生まれます。霧島の恵みが育んだ甘い宝石たちを求めてシーズンには多くの人が買い求めます。



## 完熟きんかん「たまたま」

完熟きんかん「たまたま」は、選ばれた果実のみを大切に育てた温室育ちのエリートたちです。「生」のまま皮ごと丸かじりして食べるジューシーな高原町産完熟きんかんです。



## 小麦・大麦の加工品

高原の肥沃な大地で育った小麦、大麦の品質は町内外で高く評価されています。小麦、大麦は味噌や麺、焼酎やビールに生まれ変わり、一度口にした人を魅了します。



## 天然はちみつ

黄金色に輝くはちみつには、高原の大地で育った菜種やレンゲなどの蜜がふんだんに入っています。熱を加えずそのまま瓶詰めするので、結晶が壊れず、その証拠に冬は固まります。



## あくまき

昔から高原を含めた南九州で食べられてきました。洗ったもち米を灰汁（あく）に一晩つけ、水気をきって竹の皮で包み、煮ると出来上がります。きな粉をつけて食べます。



## ニジマスの甘露煮

湧水の中でのびのび育つニジマスを長い時間煮込んで甘露煮にしています。そのまま食べても美味しいですが、2〜3合の米に1袋入れて炊き込みご飯にすると絶品です。



## 高原町産紅茶

寒暖差が激しく霧が濃い高原町の自然環境は、美味しく上品なお茶を作ります。高原町産紅茶は紅茶独特の渋みがなく、砂糖を入れなくてもほのかに甘い紅茶です。



## 原木乾燥椎茸

山林の中木漏れ日を浴び、霧島おろしの吹く高原で育った椎茸は、菌ごたえがあり、濃厚な味に仕上がります。その椎茸が匠の手にかかり、さらに美味しい乾燥椎茸に変わります。



## 清酒穂倉千徳・麦焼酎「駒」・穂倉金生

はなとう産の麦や米を使った清酒、焼酎、ビールはさまざまな品評会でも高く評価され、多くの人に愛されています。

# 心こころに響く旨み

## 小清水米

小清水米とは、北海道の小清水町などから広がったBM小清水菌を活用した稲の栽培方法です。BM小清水菌を含んだ飲料水を家畜に飲ませ、その排泄物から作った液肥を水田にまくことで、コクのある美味しい米ができます。

## 高原名産

新燃岳の灰使用

# 灰干し

熟成たかはる

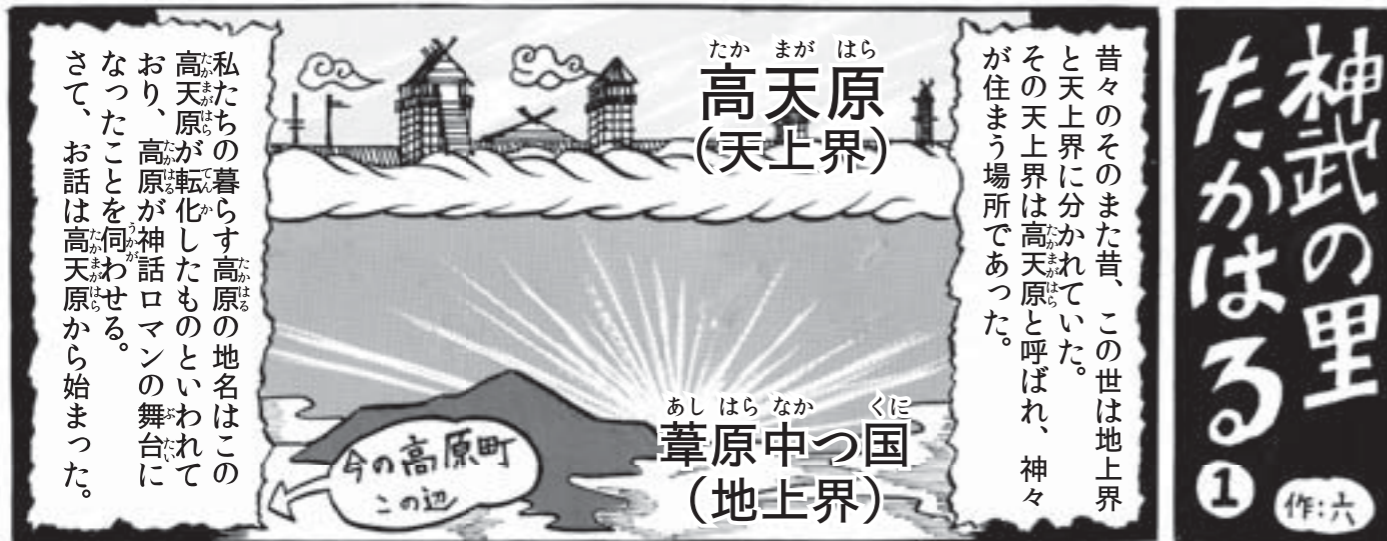
新燃えたん  
キャラクター「新燃えたん」  
新燃岳噴火災害復興応援

平成23年1月の新燃岳噴火の際に町内に降り積もった火山灰を使用して生み出されたのが「熟成たかはる灰干し」です。多孔質の火山灰が肉の臭みや水分を吸収することで、うま味が増し、肉が柔らかくなります。素材の持つ最高の美味しさをご賞味ください。

▲およそ300年ぶりの大噴火を起こした新燃岳。町内に深刻な被害をもたらしました。

▲肉をセロハン・さらし・火山灰で上下サンドし、24時間じっくり熟成させます。灰が臭みと水分を吸収します。

# マンガで神武の里たかはるについて学ぼう!



## 「日本で最も美しい村」連合

高原町の  
取り組み

「日本で最も美しい村」連合は、フランスで行われていた「最も美しい村」を範にして、平成17年にスタートしました。失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、「最も美しい村」としての自立を目指す運動です。  
当初7町村でスタートしたこの運動に、高原町は平成18年5月、8番目の町村として加盟しました。現在、46町村7地域が加盟しています。



▲平成24年10月3日～4日で高原町で行われた「日本で最も美しい村」連合2012フェスティバル in たかはる



the most beautiful  
villages in japan

高原町  
宮崎県

## 日本三奇

古くから不思議な言い伝えが残るものがあります。宮城県塩竈市御釜神社の「四口の神釜」、兵庫県高砂市生石神社の「石の寶殿」、そして高原町霧島東神社の「天逆鉾」、この3つは「日本三奇」と称されています。

平成26年7月1日、兵庫県高砂市に3市町の首長及び観光協会長が一堂に会し、「日本三奇観光パートナーシップ」宣言が行われ、協定書に調印しました。今後、観光面などで連携し「日本三奇」をPRやイベント時の相互協力などが行われる予定です。



▲四口の神釜 ▲石の寶殿



▲協定書に署名を行う日高町長



▲天逆鉾

## 霧島ジオパーク

「ジオパーク」とは、地球(ジオ)の活動遺産を主な見所とする自然の中にある公園の事です。火山や活断層など特色ある「地質遺産」を保護するとともに、長い歴史の中での人の暮らしや文化との結びつきを学び、楽しむ事を目的としています。

日本で最初に指定された国立公園「霧島連山」、その類い稀な地質遺産を保護・普及するため、平成20年に「霧島ジオパーク推進連絡協議会」が結成され、平成22年に日本ジオパークネットワーク(JGN)に「霧島ジオパーク」として加盟しました。

高原町も「霧島ジオパーク」の構成市町として霧島の魅力の発信に取り組んでいます。



イメージキャラクター「キリッチ」



立派な宮殿を建てました

ニニギはこの地に



この地に  
都をつくる!!



高千穂峰に降りたニニギは  
この地をすみずみまで調べました

# 神武の里 たかはる ③



ムジで!!



コノハナクサクヤビ  
木花之佐久夜毘売



誰でしょう?



おめでとー!



カレー  
ブローチ



君の作るみそ汁を  
毎日食べたいんだ♥

えっ!?



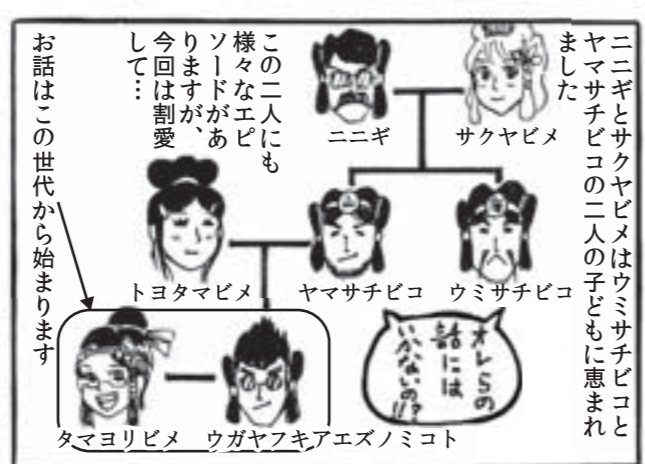
ハニー!!

ウガヤフキアエズノミコト  
鵜葺草葺不合命



生まれそうよ!!

タマヨリビメノミコト  
玉依毘売命



高千穂峰  
(1,574m 頂上は高原町)

よっしゃ!  
あの山に降りるぞ!

高千穂の久土布流  
多気でございます



あの山は何だ!?

キキキ

# 神武の里 たかはる ②



ついたぞ!!

お弁当食べましたよ!!



天降り中...



こうやって

マジ!!



え〜い!

何事!!?



天孫降臨

(天照の孫が降臨した)



私は天照大御神の孫  
天孫ニニギである

それがこの高千穂峰に降臨した



天逆鉾

謎多き伝説の鉾として現在も高千穂峰の頂上に突き刺さっています



激しい!!



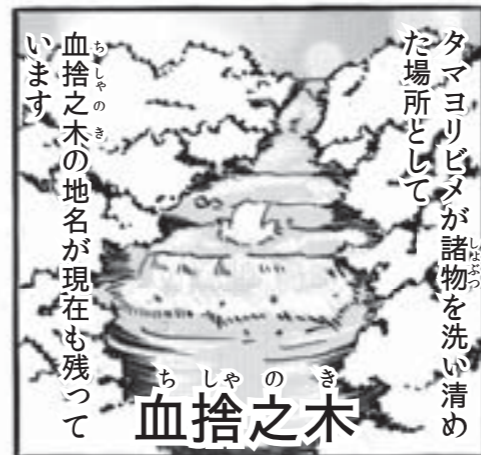
天逆鉾!!

そ...それは!?



# 神武の里 ④ 作六

## たかはる④



# 神武の里 ⑤ 作六

## たかはる⑤



# 神武の里 ⑥ 作六

父ちゃんたたいまく!

おかえり〜♪

新しいバイクが届いたからちよつとドライブに行くか? やった〜

## 宮の宇都

神武天皇が父とともに幼少時代に住んだ場所と伝えられている

どこまで行くの?

皇子原まで行ってみよう

## 都街道

宮の宇都と皇子原の往復道路と伝えられている

お前はここで生まれたんだぞ

## 皇子原の食堂

そーなんだ 時間もあまるし 次行ってみるか

## 霧島東神社

この神社は我々の先祖であり、この国を作ったイザナギノミコトとイザナミノミコトをお祀りしている

ちなみに高千穂峰の山頂にある天逆鉾はこの神社の社宝である

社宝って何?

文字通り神社の宝のことだ

次行ってみよう

ワイ〜♪

## 狭野神社 杉並木

父ちゃん ここは誰を祀っているの?

お元気で〜♪

ここはね...

お前を

祀っているんだよ!!

ヒイイ〜!!

狭野神社

日本の初代天皇である神武天皇をお祀りしている

# 神武の里 ⑦ 作六

45歳になった神武天皇は

立派な大人になっていました

我は天下を平定するために東へ向かう!!

みんな大変だ!! 神武様が高原を出ていくつてよ! そりや大変だ! 何とか阻止しなければ!

## 狭野渡

神武天皇が東の方へ行かれる際に最初に渡った川と伝えられている

さてこの川を渡ろうか...

神武様 舟がござります

あれでどうぞ

マジで!!! 一寸法師!

何の〜!!

何の〜!!

ダメだ! 川を渡ってしまった

別の方法を考えなくては...

## 迎

神武天皇が東の方へ行かれる際に郷土の人々が出迎えて見送った所と伝えられている

神武様 地区の人々が集まって出迎えています

おうそうか

皆の者がと...

お元気で〜♪

行かせない気満々だ〜!!

何の〜!!

何の〜!!



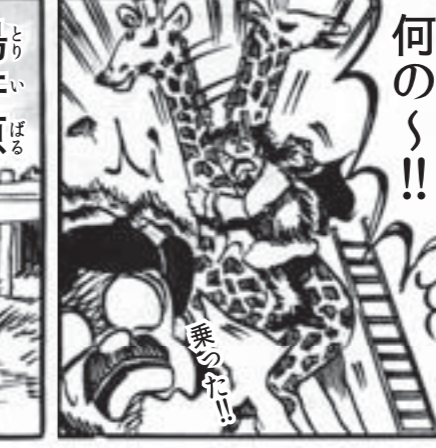
# 神武の里 作 9 たかはる



作者：高原町役場まちづくり推進課 六部一智久 ※「神武の里たかはる」は「広報たかはる」で毎月連載中。



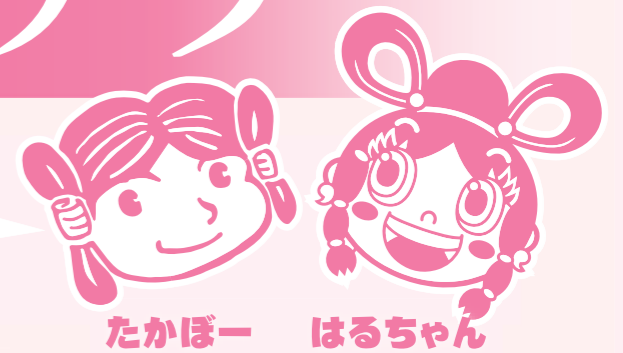
# 神武の里 作 8 たかはる



# たかはるマップ

どけいたっみるかい♪

※どこに行ってみようかな



**皇子原公園** ☎0984-42-3393

神武天皇ゆかりの地「皇子原」でたかはるの四季を感じませんか。

**御池キャンプ村** ☎0984-42-4038

野鳥のさえずりをききながら、キャンプや釣りが楽しめます。



## たかはるの温泉

**湯之元温泉**

☎0984-42-3701

**極楽温泉匠の宿**

☎0984-42-3326

**皇子原温泉健康村**

☎0984-42-1221

**家族温泉御池の湯**

☎0984-42-4088